

斜面市街地における居住環境の改善に関する研究： 長崎市の事例を対象として

金, ドン均

<https://doi.org/10.15017/1866245>

出版情報：九州大学, 2017, 博士（工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏 名	金 ドン均			
論 文 名	斜面市街地における居住環境の改善に関する研究 －長崎市の事例を対象として－			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	坂井 猛
	副 査	九州大学	教授	趙 世晨
	副 査	九州大学	准教授	住吉 大輔
	副 査	佐賀大学	教授	有馬 隆文

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、長崎市の斜面市街地を対象として、車両の進入可能な道路の有無などの建物・敷地の更新に影響を与えている要因を明らかにしたうえで、建物・敷地の更新、移動支援、生活支援、防災などの市民と行政の協働による取り組みは市民団体の要望や働きかけがきっかけとなっていること、高齢者を対象として現状を維持するための取り組みが多いことを指摘した。また、酸素摂取量に基づく歩行消費エネルギーを指標として斜面地に適用した定量的評価を行い、距離だけでなく斜路や階段の通行を考慮して各住戸からの生活利便施設へのアクセス性を表現できることを示し、教育施設や公共交通施設へのアクセスの容易さ、前面道路の幅員、車庫の有無などが空き家・空き地の発生に影響を与える要因となっていることなどの重要な指摘を行っており、都市計画学に寄与するところが多い。よって、本論文は博士（工学）の学位に値するものと認める。